令和７（2025）年度 家庭教育オピニオンリーダー研修④ 実施報告

実施日：令和７（2025）年９月19日（金）

家庭教育支援の活動に携わると、子育ての悩みについて相談を受けるなど、保護者と接する機会が増えます。今回の研修ではそんな場面を想定し、講話と演習をとおして、カウンセリングマインドを生かした相談の在り方や、カウンセリングの基礎について学びました。

○　講話「カウセリングマインドと相互理解」

総合教育センター教育相談部　副主幹　澁谷　景子

まず、子どもの発達課題を理解したうえで、カウンセリングマインドとは「きき手と話し手の間に温かい信頼関係を築こうとする姿勢」であることを学びました。人間関係の基盤は相互理解であり、きき手には相手を受け入れる姿勢、理解しようとする努力、誠実さが求められます。また、話しやすい環境づくりや非言語コミュニケーションの重要性、先入観を持たずにきく姿勢についても紹介がありました。傾聴の技術としては、沈黙の活用、質問の工夫、話題の整理などが挙げられ、参考文献を通じて実践的な知識も深まりました。

○　演習「カウンセリングマインドと相互理解」

総合教育センター教育相談部　指導主事　涌井　紀子

演習では、講話で示された「話をきくときに必要な態度」の実践を目的に、受講者同士がペアを組み、３つのセッションを行いました。きき手と話し手の両方を体験することで、互いの関心や視点の違い、相手を理解しようとする姿勢の重要性、関係性の中で生まれる感情の存在などを学びました。

演習後は気付きや感想を共有し、講師による解説でポイントが整理されました。また、保護者対応における具体的な方法についても確認し、実践に向けた理解が深まりました。

今回の研修を通じて、家庭教育支援においてより良い人間関係を築くための、多くのヒントを得ることができたようです。

☆受講者の声（アンケートから）☆

・きく側の意識が大切だということがよく分かりました。相槌のタイミング、表情、最後まできくということを意識して、相手の言葉の奥にあることを感じ取れるようにしていきたいです。
・「話題を途中で切らない」ことの大切さを改めて学びました。
・自分なりの目標達成ができて、充実感と満足感で研修を終えることができました。
・演習を通して、相手を分かろうとする気持ちの大切さが分かりました。
・先入観を持たずに話をきくことは、中々難しいなと感じました。実践型はとても身になります。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206　e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp